

令和4年度実施の文化推進事業助成対象事業 (令和3年度決定事業)の評価結果

【総合評価】

- 1 令和3年度に助成決定した「文化創造・発信事業4件」及び「文化団体活動3件」については、新型コロナウイルス感染症（以下「新型感染症」という。）の影響で、計画変更をした文化創造・発信事業1件以外は、感染対策を講じながら実施することができ、所定の事業目的をおおむね達成することができた。
- 2 文化創造・発信事業の事業者は、中央区文化推進事業助成審査会（以下「審査会」という。）が招集した中間報告会（令和4年7月開催）や最終評価報告会（令和5年3月開催）に出席し、実施状況等についてつぶさに報告を行った。その際、審査会委員から出された専門的な助言については、これからの事業運営や事業展開に意欲的に活用する姿勢が示されていた。
- 3 文化創造・発信事業4件は、いずれも中央区らしさを有する地域に根ざした文化事業であり、中央区の新しい文化の創造や発展につながることを期待できる内容である。
また、文化団体活動3件も地域に根づく芸術文化活動を長年にわたり振興・発信している団体である。
以上、両者については、どちらも本助成制度を活用することで、区内文化の振興に貢献したものと認められる。
今後とも、これら事業及び活動が継続され、さらなる発展を遂げるためには、区内の他の関係団体や文化事業者と連携を図るとともに、後継者の人材育成、活動財源の安定的確保などにも引き続き取り組んでいくことが必要である。

【各事業の成果】

- 1 文化創造・発信事業助成 4件

築地場外市場オリジナル盆踊り「おだいどこ音頭」創作と初演 (楽曲・振付・記録映像)

築地場外市場初の公式ソング「おだいどこ音頭」の盆踊りバージョンを制作し、未来に踊り継がれるオリジナル盆踊りを創作することができた。令和4年度の築地本願寺盆踊り内での初演を予定していたがコロナ禍で一年延期となったことを受け、振付映像等を動画編集しホームページ等で公開しながら、練習に取り組みいつでも初演を

迎えられる準備を整えた。食のまち築地のイメージを国内外に向けて広く発信していく息の長い取組となっている。

中央区 すくすくキッズ キャリアちゃんねる SEASON-2

コロナ禍で減少した子どもたちの校外学習や体験学習の場を補うため、“リモートで知見を育む”機会を提供するとともに、大人にとっても知的好奇心を刺激する学びの番組を企画制作した。制作したプログラム（5本）は、YouTube 公式チャンネルとして配信するとともに、東京ベイネットワーク（ケーブルテレビ）でも放映され、誰もが視聴できる機会を提供できている。

都市養蜂における創造発信事業

都市養蜂及びその波及効果をわかりやすく伝えるプロモーションビデオ（長編、短編の2本）を作成して YouTube で発信した。銀座発の環境活動である都市養蜂の魅力をはじめ、環境教育や地域のネットワークづくり、循環型社会づくりなど、その波及効果を全国に発信することで、やすらぎと風格のあるまちの実現をめざす取組となっている。

宮田大「Dai-Versity」～文楽

日本を代表するチェリスト（宮田大）と文楽人形遣いの人間国宝（桐竹勘十郎）、さらに新進気鋭の箏曲家（LEO）の三者による、クラシック音楽と和の伝統芸能とを融合させた音楽舞台公演を実施した。クラシックと日本伝統文化の融合としての新しい公演を、創作、発信し、広く区民に楽しんでもらうこと、また、音楽に興味をもっている子どもたちがホールで本格的公演を楽しむことで、音楽への興味をさらに向上させることに繋がっている。

2 文化団体活動助成 3件

地球を愛し、地域に根差し、みんなで歌う心の歌 —中央区第九記念合唱団の活動を通して—

「暮れの第九」発祥の地といわれている中央区で、その歴史を踏まえ、区民参加により歌舞伎座公演での初演再現を目指して平成19年に設立された団体である。その後毎年12月に、晴海トリトンスクエアで、区内在住・在勤者等による三世代参加型の合唱団として、無料公演を新型コロナウイルス流行前(令和元年)まで開催してきた。その後、合唱活動の特性から新型コロナウイルスの流行とともに活動自粛が求められてきた。令和4年度(2022年)は、その流行状況を勘案しながら新型コロナウイルス対策を講じ、12月16日に「再開、そして次のステップへ」と銘を打って、会員主体の特別公演を実施し、活動を再開することができた。

中央区交響楽団 第28回定期演奏会・2022冬のコンサート

地域に根ざしたアマチュア・オーケストラとして区内の音楽ホールで定期的にコンサート等を開催している団体である。常に新たな団員を募集しながら、おおむね5月に定期演奏会、11月に冬のコンサートを開催してきている。演奏会では未就学児も入場可能とするほか、平成30年の冬のコンサートから入場料を負担のしやすい寄附制に、また、令和3年度から演奏会のライブ配信を開始するなど、次世代を含めた幅広い年齢層の方が気軽にクラシック音楽を楽しめる機会づくりに努めている。

ふるさとの文化を育む「新富座こども歌舞伎」

江戸歌舞伎にゆかりの深い中央区ならではの取り組みである。地域の人たちの指導と企業の協力のもと、子どもたちが歌舞伎の稽古を重ね、地元の例大祭に合わせた公演を行っている。令和4年度は新型コロナウイルス対策を講じながら、3年ぶりに有観客での例大祭公演(5月)を実施することができた。地域密着型の稽古と公演をとおして、古典芸能への関心を高めるとともに、こども歌舞伎をふるさとの伝統文化として根づかせ、継承していくことに努めている。

【中央区文化推進事業助成審査会委員】

委員長 大西珠枝

委員 陣内秀信、四ノ原恒憲、鈴木順子、新治 満